

大阪を生物多様性の トップランナーに！



調査

外来生物の分布状況調査
野生鳥獣の被害対策検討など

活用

自然を活用した防災・減災
生物多様性の活動支援など



*自然共生サイト
国が認定する「民間の取組等によって
生物多様性の保全が図られている区域」

保全

淀川城北ワンド
(イタセンパラの保全活動を実施)



普及

子どもから大人まで、たくさん
の人が大阪の生物多様性を知り、
関わっていただけるよう普及に
努めます。
(自然環境グループ 近藤研究員)



生物多様性とは、さまざまな生物や生態系がもつ個性やつながりを表す言葉です。

生物多様性は、きれいな水・土・空気を守ることを以外にも、農林水産業・工業などを通じて、さまざまな恵み**(生態系サービス)**をわたしたちの生活に与えてくれています。

大阪の生物多様性を 調べ、守り、活かし、広めます



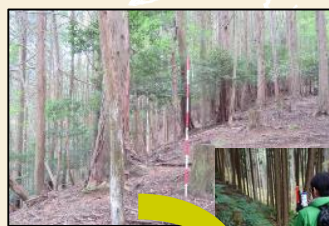
地方独立行政法人
大阪府立

環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

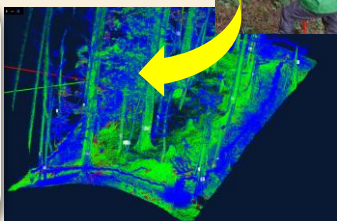
府内森林のレーザー測量-森林材積の把握-



森林を適正に管理するための調査研究を通じて、わたしたちの暮らしを守ります！
(自然環境グループ 土井裕介主任研究員)



調査区



3次元点群データ

LIDARを活用した調査

ネイチャーポジティブ社会*に向けて、自然に根差した社会課題の解決策(Nature-based Solutions, NbS)が注目されています。

森林は光合成によってCO₂を吸収して成長することから、気候変動対策の重要な役割が期待されています。成長量を正確に把握するためには、基準となる年度から期間を経て成長した材積(樹木の体積)の把握が必要ですが、これまで府内の森林では、特に高齢樹の材積の正確な測定はできていませんでした。そこで、生物多様性センターでは、レーザー光を利用したLiDAR計測システムを活用して、高齢樹を含めた森林の材積の測定を正確かつ効率的に進めています。

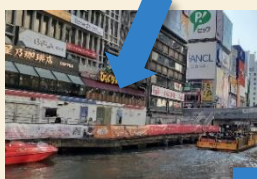
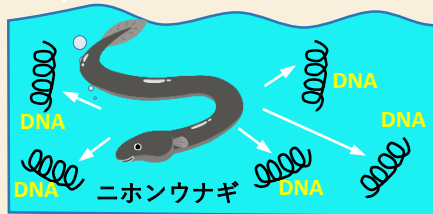
*生物多様性の損失を止めるだけではなく回復させること。
生物多様性・自然資本領域の世界共通の目標となっている。

コップ一杯の水から魚の種類を判別-環境DNAで生物多様性を調べる-

環境DNAとは、環境中に存在するDNAのことです。川や池の水中には魚などのDNAを含む糞や粘液などが漂っているので、採水して分析すると、水中のDNAからその水域に生息する魚種を特定することができます。

実際に対象魚種を捕まえても情報が得られるため、個体数密度が低く捕獲しづらい種の情報も得られる可能性があります。

採水は短時間で実施でき、採捕調査より極めて短期間で府内全域を網羅する調査も可能であるため、**生物多様性の基礎データを集積するのに強力なツールとなっています。**



道頓堀川で採水



分析

道頓堀川でニホンウナギDNAを検出！

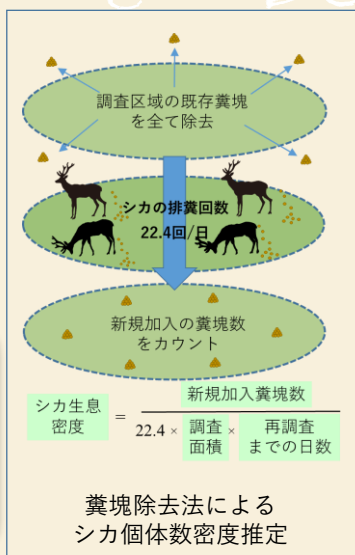


いつ、どこに、どんな種が生息するか？それを把握することが、保全と活用の第一歩です！
(自然環境グループ 山本義彦主任研究員)

野生鳥獣との共存をめざして-科学的データに基づく個体数管理-

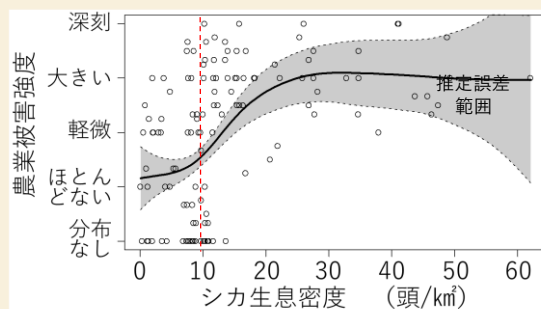


人と自然のより良い関係が構築できるよう、これからも大阪の生態系を見守っていきます。
(自然環境グループ 幸田良介主任研究員)



大阪では、シカは主に北摂地域に分布しており、シカ高密度地域では農業被害が発生しています。

そこで、シカの計画的な管理のため、「糞塊除去法(左図)」により、シカの生息密度と農業被害との関係を解析した結果、密度が1平方キロメートルあたり10頭を超えると被害が急激に増加することが分かりました。



シカ生息密度と農業被害強度の関係

この密度を指標にして、大阪府では、シカの管理に取り組んでいます。

